

# 外来の寄生植物 アメリカネナシカズラと ハマネナシカズラの 移入個体群

## アメリカネナシカズラ

*Cuscuta campestris* Yuncker

ヒルガオ科ネナシカズラ属のアメリカネナシカズラは北米原産の帰化植物で、世界に広く帰化している（図-1）。宿主と生育環境をあまり選ばないため広い地域に生育しており、ときに圃場のダイズやジャガイモ、施設栽培の野菜・花卉類に寄生する。寄生された宿主作物は衰弱および枯死するため、農業被害をもたらす。

### ■国内分布, 侵入経路, 侵入時期

北海道から沖縄まで日本全国に広く帰化している。日本への侵入経路は輸入穀物や緑化・砂防用種子の夾雑種子に由来すると推定されている。本種の帰化は1970年頃に認知されたが、倉敷市自然史博には1930年代の神戸産標本が保存されている。当初は在来種ハマネナシカズラと誤認されることが多かったが、ハマネナシカズラは分布の限られる希少種である（後述）。

### ■形態と生態

発芽は散発的に起こり、発芽後は左旋回運動で宿主に巻き付き、吸盤を形成して宿主から養水分を吸い取る。植物体は黄褐色で、緑葉はなく、鱗片葉のみをつける。8～9月に開花する。本種は形態的に極めて変異に富むことおよび種を判別する形質に乏しいためにその分類も混乱していたが、Costea ほか (2006) が近縁種を含めた整理を行っているので参照されたい。

### ■近縁種と同定ポイント

日本に、ネナシカズラ属はマメダオシ、ハマネナシカズラ、クシロネナシカズラ、ネナシカズラの4種が自生する。外来種では、アメリカネナシカズラ、アマダオシ、ツメクサダオシが帰化している。このうち、アメリカネナシカズラ、ハマネナシカズラ、マメダオシの3種は花柱が2本である点で他と識別できる。ハマネナシカズラは萼筒背面に明瞭な10稜が発達することと宿存花冠が果実の半分以上を包むこと、マメダオシは花冠裂片が鈍頭で果実時に反曲しないこと、アメリカネナシカズラは花冠裂片が鋭頭で果実時に反曲することなどが特徴である。

## 在来と移入のハマネナシカズラ

*Cuscuta chinensis* Lam.

アメリカネナシカズラと誤認されることのある海浜性在来種のハマネナシカズラは、国内では関東以西の太平洋岸と瀬戸内海地域に希産するが、その多くが絶滅し、現存産地は10ヶ所未満である。

一方で、移入と推定されるハマネナシカズラが海浜環境以外に出現する例があり（例えば、横浜市瀬田区の畑地で

農研機構中央農業研究センター 土壌肥料研究領域

早川 宗志

人間環境大学人間環境学部

藤井 伸二



図-1 シソ科ハマゴウに寄生するアメリカネナシカズラ（高知県高岡郡四万十町興津，2015年8月8日，大賀教平氏撮影）



図-2 本来の生育環境とは異なる山中のメドハギ法面緑化地に生育していたハマネナシカズラ（高知県高岡郡四万十町興津，2013年6月9日撮影）

2003年9月26日に採集された神奈川県立生命の星・地球博物館所蔵標本）、著者（早川）も高知県の山中の道路沿いで生育を見ている（図-2）。本個体群は、峠付近の法面のメドハギ緑化地に生育していたことから移入個体群と考えられる。発見2年後には生育が確認できなかった（福田達哉氏、前田綾子氏、田邊由紀氏 私信）、定着せずに絶滅したと考えられる。

国内では緑化用種子として年間推定95トンのメドハギ種子が流通しているが、そのほとんどがアメリカ産である。メドハギおよびハマネナシカズラの両種とも分布しないアメリカでは、日本産もしくは中国産の種子を導入して栽培収穫している可能性が高い。法面緑化では起源の異なる複数の種子ソースを播種することもあり、今回の個体群の起源は不明である。蛇足だが、ハマネナシカズラのタイプ標本はパリ植物園において中国由来の作物を栽培した際に混生したものであり、この植物の認知自体が作物混入による移入である。

### 参考文献

- 浅井康宏 1975. 新しく日本に帰化したアメリカネナシカズラ（新称）について. 植物研究雑誌 50, 238-242.
- 藤井伸二 2013. ハマネナシカズラ（ヒルガオ科）の国内分布. 分類 13, 103-107.
- 環境省ら 2006. 平成17年度外来生物による被害の防止等に配慮した緑化植物取扱方針検討調査委託業務報告書 283p.
- Lamarck, J. B. A. P. 1786. Encyclopedie Methodique Botanique 2, 229.
- Costea, M. et al. 2006. Taxonomy of the *Cuscuta pentagona* complex (CONVOLVULACEAE) in North America. SIDA 22, 151-175.